

## 1 産地の概要

- ＜対象地域＞ 高山市・飛騨市
- ＜対象品目＞ 夏ほうれんそう
- ＜産地の現状・課題＞

- ・直近5年間で生産者数は20%程度減少しているが、経営規模の拡大と単収の向上により産地規模を維持してきた(現状:生産戸数349戸、栽培面積延べ825ha、生産量6,355t)。
- ・規模拡大したことでの確なほ場管理ができず、収量・品質に悪影響を及ぼす事例も見られるほか、最も人手を要する収穫物の調製作業において雇用確保が困難になってきている。
- ・こうした状況のため、近年播種を控える傾向にあり、将来の産地基盤の縮小が懸念されている。

## 2 検討体制

- ・飛騨蔬菜出荷組合ほうれんそう部会(高能率調製機等の導入検証)
- ・飛騨農林事務所農業普及課(検証・調査・検証結果の分析)
- ・高山市・飛騨市(調製機等の導入にかかる支援)
- ・JAひだ(調査支援・事業実施における庶務・会計)



調製機現地調査

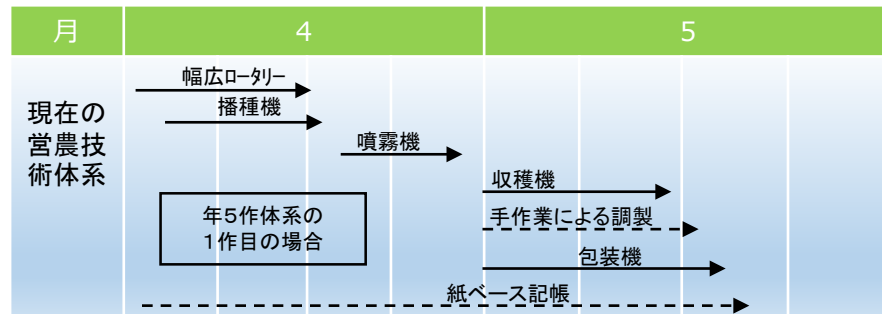


検討会

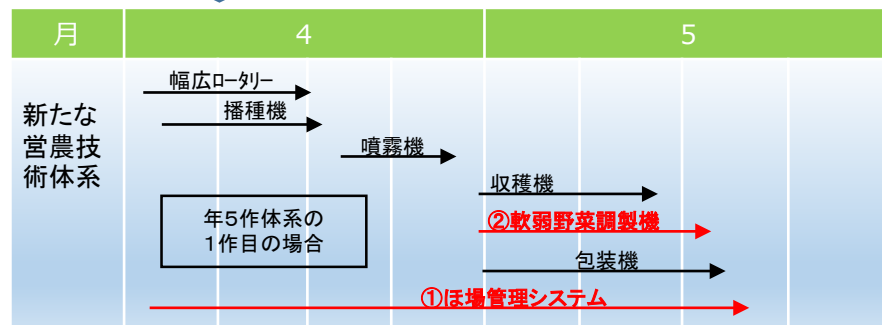
## 3 新たな営農技術体系への転換

＜目指す産地像＞

クラウド型ほ場管理システムや高能率調製機の導入により、的確なほ場管理と限られた人材で最大限の生産性を発揮できるほうれんそう経営



①ほ場管理システム ②軟弱野菜調製機



＜新たな営農技術体系の効果(検証結果)＞

軟弱野菜調製機(クボタNC301)

調製箱数 導入前 1.7箱/人 → 導入後 2.1箱/人

約2割↑

＜新たな営農技術体系の今後の取組内容＞

取組主体	R2	R3	R4
飛騨農林事務所	検証技術(調製機)の普及支援		
JAひだ	ほ場管理システムの導入検討	ほ場管理システムの導入支援	
高山市・飛騨市	調製機・ほ場管理システムの導入支援		